



金、資、(B) 第一七號

東亞共榮圈內諸國ニ關スル調査 (佛印)

(昭和十六年十一月)

財團法人世界經濟調査會
金融研究部



(東亞共榮圈內諸國ニ關スル調査)

佛 領 印 度 支 那

第一、貿易狀況ノ概要

(一) 一般

□ 對日貿易

○ 日、佛印經濟協定ノ成立ト佛印貿易ノ新發足

第二、貿易決濟方法ノ概要

(一) 爲 替

○ 日、佛印經濟協定ニヨル貿易決濟

第三、貿易及爲替統制ノ概要

(一) 輸入ノ決濟

□ 輸出ノ決濟

○ 爲 替 局

佛領印度支那

第一、貿易狀況ノ概要

一般

當領ノ最近ニ於ケル純貿易ノ動向ハ一九三〇年一—一九三四年間ノ
 經濟恐慌期ノ著シキ減退ヲ恢復シテ、一九二六年一—三〇年間ノ最
 盛期ニ接近シツツアツタ右貿易ノ發展ハ單ニ價格ノ増加ニ止ラズ
 數量ニ就テモ同様増加ノ傾向ヲ示シテキル。佛印ノ貿易尻ハ年々
 出超ヲ續ケテ居ルガ在留華僑ノ本國向送金、佛人官吏ノ俸給或ハ
 退職金、商業益金、事業配當等ノ本國向送金、佛本國ノ強制割當
 金及ビ本國市場ニ於テ募集セラレタ公債ノ消却等モ巨額デアル。
 今一九三一年以降ノ純貿易統計ヲ示セバ左ノ如シ。(Annuaire

Statistique de L'Indochine 根據ル)

産物、玉蜀黍、護謨、石炭、鑛物及ビ金屬類、水産物、種子及製油、果實、セメント、木材等デアアルガ其中最モ重要ナルモノハ米玉蜀黍、護謨、石炭ノ四品デアリ一九三七年度輸出總額中約八二%ヲ占メテ居ル。

輸入品ノ主ナルモノハ織物、金屬類、金屬加工品、石油及ビ精油葡萄酒、各種煙草類、紙類、各種牛乳類、綿糸類、護謨製品、生糸、自動車、小麥粉、化學製品、茶、牛酪等其ノ種類ハ多イ。之ヲ一九三七年度ノ輸入額ニ就イテ見レバ織物、綿糸、生綿ヲ合シ三一・六%金屬類及ビ金屬加工品一九・一%即チ纖維工業製品及ビ原料品ガ最モ多ク金屬、器具、機械類等之ニ次イデ居ル。今一九三七年、一九三八年、一九三九年ノ三ケ年ニ於ケル商品別輸出入額ヲ示セバ次ノ如シ。

佛印輸出表(品目別) (單位千法)

品名	一九三九年	一九三八年	一九三七年
動物ヨリ製品	六二〇〇〇	五三、四七〇	四二、六一〇
水産	八六、五九〇	八一、五〇〇	七五、二二〇
玉蜀黍	三四、四八一〇	五一、一、四一〇	四六、六、五七〇

4

米及製品	一、三八五八八〇	一、〇一九八六〇	一、〇九三、八一〇
其他穀物	六七三〇	一八、五三〇	一五、二二〇
果實及種子	二五、五九〇	二六、九三〇	二九、四五〇
(内コブラ)	(一六、五〇〇)	(一七、一四〇)	(一九、〇七〇)
植民産品(胡椒)	七九、六九〇	五九、二八〇	五〇、七五〇
肉柱、茶)			
樹液、植物油	九九、六九六〇	六六、〇八二〇	四九、四四一〇
(内ゴム)	(九九、五六九〇)	(五二、〇七三〇)	(四六、五五九〇)
一般材料	一七、〇〇〇	一、一、一六〇	七、一五〇
チー、ク、簿	一、二、三八〇	九、二七〇	一〇、六六〇
カボツク其他	二七、一三〇	二、四〇六〇	一九、〇六〇
纖維細工	三六、五六〇	二、五二八〇	一九、四七〇
セメント	一五、一八八〇	一、二、一八六〇	八、八七〇
石炭	一五、一八八〇	一、二、一八六〇	八、八七〇
錫	五、一八八〇	三、三一四〇	三、四〇〇
亞鉛	五、六八〇	四、五六〇	三、四三〇
ニツケル	三、九九四〇	四、〇、二一〇	三、〇、二四〇
タンクステン	一、一、三二〇	一、二、〇二〇	九、九五〇

品 別	佛 印 輸 入 表 (品目別) (單位千法)		
	一九三九年	一九三八年	一九三七年
其他 金屬	一三一三〇	九六六〇	二七七〇
織 物	二三九六〇	二〇五四〇	一七六七〇
家具木細工	一四三六〇	一〇五〇〇	四九六〇
スバルト細工	一三九八〇	一四七四〇	一、三三七〇
各種細工	一三四九〇	一、一八六〇	七九三〇
金	一、一七四〇	二、八六五〇	一、五九〇
其他	六二二〇〇	三、四五三〇	四、三四九〇
合 計	三、四九四、七三〇	二、八四三、八四〇	二、五九四、一〇〇
動物物及製品	三、四八一〇	三、〇八二〇	二、二七七〇
食料 澱粉	六、五三二〇	六、四六九〇	四、四三一〇
果實及種子	四、一四七〇	三、八九七〇	二、五〇六〇
牛乳、煙草類	一、〇〇七、六〇〇	九、五二六〇	七、六六四〇
野菜油、藥草	三、七三八〇	二、九四九〇	二、三八六〇

5

6

其他織物	人絹織物	綿織物	黃麻袋	其他糸類	絹糸	綿糸	陶磁器	醫藥品	染料顏料	化學製品	金屬類	石油類	葡萄酒其他飲料	雜廢物(紙屑等)	生棉	木材
九一、五三〇	五三一、二〇〇	二六〇、六一〇	一三〇、七五〇	三八、二七〇	五七、五三〇	二二、九八〇	四〇、七一〇	六〇、二七〇	二六、二五〇	六六、六三〇	二一九、九一〇	一五、三九九〇	五九、一〇〇	三四、七二〇	一〇三、〇八〇	二四、六六〇
七七、五一〇	七七〇、八一〇	二一七、〇四〇	六一、七一〇	二九、四一〇	四四、一五〇	二二、三六〇	二九、四九〇	四七、六三〇	二二、五二〇	四八、三七〇	一九二、二一〇	一二二、三一〇	五一、〇〇〇	三五、二二〇	七九、〇一〇	一八、五九〇
七二、七一〇	五四、五八〇	一八六、四七〇	五六、九三〇	一五、九〇〇	四五、四一〇	一三、五四〇	二六、六六〇	三八、九七〇	一八、七七〇	四九、九〇〇	一三七、七二〇	九六、二七〇	四一、七六〇	二八、二一〇	五三、九五〇	二四、八〇〇

衣服類	二〇五八〇	一五四七〇	九〇七〇
紙類	七七〇〇〇	七二二〇〇	六五四四〇
金屬製品	二八七一七〇	二二六九五〇	一六五八三〇
武器火藥類	九四六〇	六四三〇	五八六〇
木製家具細工	一〇一八〇	一〇〇八〇	九〇八〇
貨車、自動車、自 轉車及部分品	二二五二八〇	一六八七九〇	一二七六七〇
其他	二八七四〇	一八二五〇	一九二三〇
合計	二三八二二六〇	一、九四七二六〇	一、五六二三七〇

次ニ相手國別貿易ニ就イテ之ヲ見ル時ハ佛本國並ニ同殖民地ノ地位ハ當領貿易ニ於テ壓倒的優位ヲ占メ、一九三七年ニ於テ輸出總額ノ五二・一％輸入總額ノ五七・〇％ヲ示シテキル。

佛國ニ次グ勢力ハ支那デアル。香港ハ支那貿易ノ伸繼港トシテノ役割シカ持タナイカラ之ヲ支那ニ加算スレバ、總輸出額ノ一六・七％總輸入額ノ一六・一％ヲ占メ第一位ヲ保持シテ居ル。

佛國及支那ニ次ギ輸出ニ於テハ新嘉坡、北米合衆國、日本、獨逸等輸入ニ於テハ蘭印、新嘉坡、北米合衆國、日本等ガ重要デアル。

即ち當領貿易ハ歐米諸國ニ於テハ佛國、極東市場ニ於テハ支那ガ最モ重要ナル相手國タリシコトガ判ル。今一九三七―三九年ノ三ケ年間ニ於ケル相手國別輸出入額ヲ示セバ次ノ如シ。

佛 印 輸 出 表 (仕向國別) (單位千法)

國 名	一九三九年	一九三八年	一九三七年
佛 本 國	一、一、二、六、七、六〇	一、三、五、〇、二、八〇	一、一、九、五、五、八〇
獨 逸	一、八、四、二〇	三、七、八、八〇	六、四、二、八〇
和 蘭	四、七、三、一〇	三、二、〇、五〇	二、二、六、四〇
支 那	一、七、〇、九、八〇	七、五、七、〇〇	一、三、九、八、八〇
雲 南	四、五、〇、五〇	一、六、一、五〇	五、三、六〇
香 港	三、〇、八、二、二〇	二、七、四、二、四〇	二、九、四、七、六〇
蘭 印	二、六、二、一、六〇	五、二、四〇	四、三、三〇
日 本	三、七、七、〇〇	二、八、一、七〇	一、二、八、二〇
比 律 賓	一、六、〇、八、九〇	八、七、六〇〇	一、〇、八、六〇〇
新 嘉 坡	三、五、七、七、五〇	二、七、七、二、三〇	一、九、五、八、五〇
レ ユ ニ オ ン	四、三、四、六〇	二、四、二、四〇	二、四、六、三〇

佛領西アフリカ	其他佛領	アフリカ	米國	其他	合計	佛印輸入表 (仕出國別) (單位千法)		
						佛本國	白耳義	英蘭國
五一、四八〇	九六六〇		四一、八一六〇	三六〇、九二〇	三四、九四七三〇	一九三九年	一九三八年	一九三七年
三一、三四〇	九九五〇		二四、九三一〇	三二、四四一〇	二八、四三八四〇			
	七、九四〇		一、八〇一	二、六四九八〇	二、五九四一〇			
						佛本國	佛本國	佛本國
						一、三三三、六五〇	一、〇一七、九三〇	八三、五五五〇
						二、八二七〇	二、三一、二〇〇	二、五七九〇
						六、七三五〇	六、二四三〇	三、三三七〇
						一、八五四〇	一、八、二五〇	一、〇、一二〇
						一、七、二二〇	一、五、四九〇	五、九五〇
						一、〇、六、二六〇	一、四、二、九九〇	一、一、四、五〇〇
						一、六、六、五二〇	一、四、三、四三〇	一、三、五、四四〇
						香港	支那	瑞西

品目	仕出國	一九三九年	一九三八年	一九三七年
英領印度		四一、六六〇	一三、八三〇	二一、八〇〇
日 本		一四、六二〇	一三、〇四〇	八、二九〇
ブラジル		一五、七〇〇		一、一三〇
合計		二三八、二六〇	二九、四七二	三〇、六六〇
其 他		九四、八〇〇	九六、九六〇	六六、八〇〇
米 國		九九、三六〇	九七、八六〇	五二、〇三〇
ア ルゼ リ ア		四三、五四〇	三九、四七〇	三、一〇四
新 嘉 坡		一〇〇、五一〇	五七、七九〇	五八、〇四〇
泰 國		四一、二九〇	三六、〇二〇	三三、一三〇
日 本		四〇、一二〇	五五、五三〇	四八、二六〇
蘭 領 印 度		一〇、四五二	八四、五六〇	六八、六二〇
英 領 印 度		一、二〇三	五五、四三〇	四三、七三〇

尙、主要輸入品ヲ仕出國別ニ示セバ次ノ如シ。

主要輸入品明細表（仕出國別）（單位千法）

10 生 棉

(二) 對日貿易

佛印ト日本トノ貿易關係ハ大ナルモノデナカツタ。日本ハ佛印ノ輸出相手國トシテハ佛國、支那、新嘉坡、北米合衆國ニ次イテ第五位、輸入相手國トシテハ佛國、支那、蘭印、新嘉坡、北米合衆國ニ次イテ第六位ヲ保持スルニ過ギズ（一九三七年ニ於テハ日本ヘノ輸出額ハ總輸出額ノ四・二%日本ヨリノ輸入額ハ總輸入額ノ三・二%）シカモ日本ニトリテハ佛印ヨリノ輸入ハ輸出ニ倍スル不利ナル片貿易デアツタ。

日本向佛印輸出品ノ主タルモノハ石炭、玉蜀黍、護謨、鹽、漆デ輸入品ハ繰綿、絹布、茶、陶磁器、馬鈴薯、硝子器等多種多様デアアル。

(三) 日、佛印經濟協定ノ成立ト佛印貿易ノ新發足

前述ノ通り從來ノ佛印貿易ハ

一 輸出品ハ米ヲ大宗トシテ玉蜀黍、護謨、石炭等主トシテ農産物ニ依存スルコト、輸入品ハ原料、纖維並ニ金屬加工品ヲ主タルモノトシテ一般生活必需雜貨デアアルコト。

二 輸出入共其ノ大半ハ佛本國ガ占ムルコト。右ハ佛印ヲ以テ食料品、原料品ノ供給地タラシムルト共ニ他方佛國製品ノ市場タラ

シメントスル佛本國政策ノ然ラシムルトコロデアツテ、佛國及其ノ植民地トノ輸出入ハ原則トシテ無稅トナシ第三國ヨリノ佛印向輸入品ニ對シテハ佛本國ト同様ノ關稅法ヲ適用シタ。

且ツ佛國ヨリノ供給品ハ佛印ノ政治上、行政上必要ナル物資例ヘバ鐵道資財、港灣設備資財等ヲ主トシ食料品、諸雜貨等モ佛印在住佛國人並ニ富有ナル華僑、安南人ノ嗜好品ヲ對象トシタ

三 極東市場ハ支那ガ主要相手國デアツタ。即チ輸出ニ於テハ米、護謨、石炭、セメント等ヲ始メトシテ佛國ニ次グ輸出相手國ハ支那デアリ、輸入ニ就テモ土人ノ生活必需品ハ多ク支那ヨリノ輸入ニ仰イダ。之在住華僑ノ必需品タルト共ニ安南人ハ其ノ生活様式ヲ支那人ト等シクスルカラデアル。隨テ佛印ノ關稅モ之等支那ヨリノ輸入品ニ對シテハ特別ノ待遇ヲ以テ臨ムコトヲ餘儀ナクセラレタ、且ツ北部東京地方ハ南支三省殊ニ雲南トノ特ニ密接ナル關係ヲ有スルガ故ニ對支佛印通過貿易ニ對シテハ原則トシテ無稅トスル特典ヲ供與シタ。

四 對日貿易ハ殆ンド問題トナラナカツタ。且ツ日本ニトツテハ貿易尻ハ常ニ不利デアツタ。之極東ニ於ケル工業國タル日本ノ製品ハ佛國ニトツテ競争相手タルガ故デアル。殊ニ一九二九年四

月ヨリ實施セラレタルキルシエ特別關稅率ハ特ニ日本商品ノ佛
印ヘノ輸入ヲ禁壓スルニ均シイモノガアツタ。其後ノ日、佛間
ノ通商條約締結ニヨリ多少日本ニトリ有利ナル轉回ヲ見タルモ
尙日、佛印間ノ貿易調整ヲ見ルニハ至ラナカツタ等ガ其ノ特徴
ト見做サル可キデアラウ。

然ルニ第二次歐洲戰亂ノ勃發ヲ機會ニ右貿易態勢ハ一變セザル
ヲ得ナクナツタ。本國トノ交通ガ窮屈トナルニ隨ツテ輸出品ノ
大宗タル米ハ東洋市場ニ其ノ販路ヲ求メザルヲ得ナクナツタガ
日支事變ニヨル支那沿岸ノ封鎖ハ支那ヘノ輸出ヲ不可能ナラシ
メタ。之ヲ救ツタモノハ日本デアアル。一九三二年日、佛通商條
約締結ノ當初ハ日本ハ佛印米ノ買付ニハ *No Interest* デアツタガ
事變後ハ佛印米ノ買付ガ重大關心トナルニ至ツタ。斯クテ佛本
國、支那ヲ最大得意トセル米ノ市場ハ日本ニ變ツタ。戰亂勃發
ノ當初ハ日本ヘノ鐵鑛、マンガン鑛等ノ輸出ヲ禁止シ援蔣ル
トニヨル重慶政府援助ニ狂奔シタ佛印政府モ今日トナリテハ必
要物資ノ輸入モ勢ヒ日本ニ頼ラザルヲ得ヌコトナツタ。即チ
從來貿易上ニ於テモ佛本國ニ從屬セル佛印ハ今後ハ東亞共榮圈
ノ一環トシテ日本中心トシテ新發足點ヲ見出スニ至ツタノデア

ル果シテ戦後モ此ノ情勢ヲ持續シ得ルヤ否ヤハ懸ツテ本邦ノ態度ニアルデアラウ。

尙新協定ニ於テハ一九四一年度ニ於ケル日本側買付品目トシテ一年間ノ繰延決濟ニヨル佛印米、米弗決濟ニヨル護謨ノ外、石炭、玉蜀黍、鑛物、其他佛印輸出品ノ凡有商品ニ互リ又之ト見合ス可キ本邦側輸出品ハ纖維品ヲ始メ凡有部門ニ互ツテ居ル。

第二、貿易決濟方法ノ大要

(一) 爲替

佛印ハ一九三〇年五月卅一日ノ法律ニヨツテ銀本位制ヲ廢止シテ金本位ヲ採用、本國通貨タル法ニリンクシテ一比弗貨ヲ以テ一〇法ト定メタ。爾後一九三六年並ニ一九三七年ノ兩度ニ互ル佛貨ノ切下ゲト金本位ノ離脱ニヨツテ比弗貨ハ本國通貨ト運命ヲ共ニシ所謂浮動比弗貨トシテ今日ニ及ブ。但シ第二次歐洲大戰勃發以後ハ聊カ其ノ相貌ヲ異ニスル。開戰當初佛貨ハ英佛間ノ爲替協定ニヨツテ一磅ハ176法ト定メラレタ儘今日ニ及ンデ居ルガ英佛間ノ外交經濟關係ガ斷絶ニ等シイ今日ニアツテハ之ハ殆ンド各目相場ニ過ギナイデアラウ。

尙英米公定クロツスハ4.025
 デアルカラ是カラ裁定スルバ佛米相

場ハ 43.85 トナル。即チ現在佛國ニ於ケル紐育向相場ハ Selling
 43.90 Buying 43.70 デアル。比弗貨ノ對外爲替相場ハ Selling Fcs 10.00
 Buying Fcs 10.05 チ基準トシ右佛米相場ト裁定シテ quote セ
 ルモノデアル。即チ印度支那銀行公定建相場ハ紐育向賣 22 11/16
 買 23.00 トシタ。尙米國政府ハ佛國ノ全面的敗退ト共ニ同國並ビ
 ニ其ノ植民地ノ在米資金ニ對シ凍結令ヲ適用シタ。佛本國トノ物
 資ノ交流ガ杜絶シ在米資金ノ利用モ不可能トナツテハ前記米弗基
 準ノ爲替相場ハ殆ンド名目的ナモノト云ヒ得ル。随ツテ物價ノ變
 動ト生活基準等サヘ考慮ニ入ルレバドノ點ニ持ツテ行カウト理論
 上自由デアラウ。日、佛印經濟協定成立後日、佛印間ノ爲替相場
 ハ從來右對米 22 11/16 及 23.00 チ基準トシ賣 96 1/2 買 98 1/8 ノ建
 値デアツタガ五月廿四日以後對米賣相場ヲ 22 3/4 ニ引上ゲ本邦對
 米相場 23 7/16 ニ裁定、賣 97 1/8 買 98 1/8 ト賣買鞘ヲ縮メ今日ニ
 及ンデ居ル。

對英、賣 1/1 17/32 買 1/1 13/16 新嘉坡向賣 47 7/8 買 49.00 蘭印
 向賣 42 1/2 買 43 1/2、盤谷向ハ泰、佛印國境ノ紛爭ノ爲メ相場相
 建不申但シ協定成立ノ上ハ近ク金融協定成立期待セラル。

支那系通貨香港及ビ上海向相場相當浮動アリ最近各月ノ趨勢左ノ

如シ。

	Jan.	March	June
H.¢	S. H.¢ 93 1/2 - 94	90 3/4	91 1/4 - 91 3/4
B.	96 - 96 1/2	93 1/4	93 3/4 - 94 1/4
Shai.¢	S. S.¢ 380 - 405	385 - 390	390 - 395
B.	No Quotation	No Quotation	No Quotation

(二) 日、佛印經濟協定ノ成立

本年五月六日正式調印ヲ見タル日、佛印經濟協定ハ

(1) 佛印ニ關スル日、佛印間居住航海條約

(2) 日、佛印間ノ關稅制度、貿易及其ノ決濟ノ様式ニ關スル日、佛協定

(3) 條約協定以外ノ取極ノ(議定書、交換公文等ニ依ル)

チ内容トセルモノデアルガ右ノ關稅貿易決濟ニ關スル協定ノ中貿易及決濟ニ關スル事項左ノ如シ。

(1) 貿易

一 佛印ヨリ日本ヘノ輸出ニ對シテハ各品目ヲ通ジテ最少限ヲ規定シ日本ヨリ佛印ヘノ輸出ニ就イテハ最高割當數量ヲ決定双方共輸出入許可ノ義務ヲ負フ。

(2) 決濟ノ様式

一 佛印ノ對日輸出品目ハ米、石炭、玉蜀黍、生漆、鐵鑛、マンガ
ン鑛、燐灰石、亞鉛、タンクステン、硅砂、牛皮、鹽、松脂、
胡椒等デ佛印產品ニシテ日本ノ必要トスルモノハ護謨ヲ除キ殆
ンド全部ガ優先的ニ日本ニ供給セラルルコトナツタ。

二 日本ノ對佛印輸出品目ハ綿布、人絹、雜貨類等五百品目ニ上ル
四 輸出入ノ品目及ビ量等ハ一ケ年毎ニ協定、取敢ズ一九四一年度
ノ輸出入品ノ品目ト量ガ決定セラレタ。

一 原則トシテ第三國通貨ヲ仲介トセズ圓ト比弗貨ニヨル清算制度
ヲ採ル。即チ當行及ビ印度支那銀行内ニ夫々相手國ノ當座勘定
ヲ設ケ双方ノ帳尻決濟ニヨル清算ハ各月末毎ニ行ヒ、決濟尻ガ
五百萬圓ヲ超ユル毎ニ相手國ノ要求スル外貨デ超過金額ヲ支拂
フ。但シ本邦側ニ於テハ右超過額ガ五百萬圓ヲ超ユルモ佛印米
買付ニヨル圓貨勘定殘高以内ナル時ハ決濟ヲ要求シ得ナイ。

二 佛印米ノ支拂ニ就イテハ壹ケ年間ノ延拂ヲ認メ壹年後ニ漸次第
一項一般勘定ニ繰入ル。

三 有効期間ハ昭和十八年末迄テ六ケ月ノ豫告期間デ廢棄シ得ル。
但シカカル通告ナキ場合ハ自動的ニ効力ガ繼續スル。

第三、貿易及爲替統制ノ概要

佛印ニ於テハ戰亂勃發ト同時ニ本國ニ做ツテ全面的ニ爲替管理ヲ強化シタ。即チ輸出入ノ許可制ヲ施行スルト同時ニ外貨ノ賣買ニ對シテハ爲替局ノ許可無クシテ之ヲ爲シ得ズ外國爲替ハ全テ爲替局ニ集中シ印度支那銀行ヲシテ爲替局事務ヲ代行セシムルコトトシタ。即チ同行以外ニハ純然タル意味ノ爲替ノ賣買ハ禁止セラレ之ガ取扱ハ單ニ一定ノ手数料ニテ顧客ト爲替局ノ取次ヲナシ得ルニ過ギナイ。尙一九四〇年七月一日附總督令（印度支那ニ於ケル輸入及輸出決済ノ件）ノ要領左ノ如シ

第一章 輸入ノ決済

第一條 本令署名ノ日ヨリ原產地ノ如何ヲ問ハズ外國品ノ輸入ハ豫メ左記ノ事項ヲ證明セル證明書ヲ受クルコトヲ要ス、當該輸入ノ決済ニ要スル外國爲替ノ交付ヲ許可セラレタルカ
又ハ輸入者ノ申告ニ從ヒ當該輸入ノ決済ニ何等外國爲替ヲ要セザルコト。
右ノ證明書ハ輸入許可ヲ所管スル官廳各取引毎ニ之ヲ作成スルモノトス。

第二條 輸入ノ決済ニ外國爲替ヲ要スル時ハ爲替局ハ前條ニ規定セル證明書ノ提示アリタル場合ニ限り之ヲ交付ス。輸入者ハ右ノ外申請又ハ交付セラレタル外國爲替ノ金額ニ付キ爲替局ニ對シ同局ガ必要ト認ムルアラユル證明ヲナス事ヲ要ス。豫メ交付セラレタル外國爲替ニシテ其ノ使用ヲ證明セザルトキハ之ヲ爲替局ニ返還スル事ヲ要ス。

第二章 輸出ノ決済

第五條 總テ外國向貨物ノ輸出者ハ左ノ契約書ニ署名スルコトヲ要ス。若シ輸出ノ決済ガ全部又ハ一部外國爲替ヲ以テ行ハルルトキハ、當該貨物輸送ノ船舶出港ノ時ヨリ、仕向港ガ香港及新嘉坡附近ナル時ハ十五日、其他ノ場合ハ三十日以内ニ右ノ外國爲替ヲ爲替局ニ讓渡シ、爲替局ガ適當ト認ムル時ハ右ノ期間ヲ短縮シ又ハ即時ノ讓渡ヲ求メ得ル旨ヲ定メタル誓約書。

若シ輸出ノ決済ガ全部又ハ一部「ピアストル」ヲ以テ行ハルルトキハ、豫メ爲替局ガ印度支那產品ノ買付ニ使用スル事ヲ許可シタル外國人ノ「ピアストル」資金ニ限り之ガ支拂ヲ受クル旨ノ誓約書。

第六條 輸出者ハ代金トシテ支拂ヲ受クル金額ニ付キ、自己又ハ第三者ニ對シ委託販賣ノタメ積送セル場合ニ於テハ最終ノ賣上高ニ付キ

爲替局が必要ト認ムルアラユル證明ヲ行フ事ヲ要ス。

第三章 爲 替 局

第七條 印度支那銀行ハ印度支那總督府（財務部）監督ノ下ニ引續キ
爲替局運營ノ責ニ任ズ。

但シ第一條ニ規定セル證明書ノ作成ハ *Hanoi* ニテ貿易部ト連絡ヲ取
リ經濟部之ヲ行フ。

以 上